

西濃農林事務所の普及活動状況

平成24年8月27日現在

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 栽培前研修会の開催、播種・定植の開始

7月25日に安八部会、8月1日に大垣部会で栽培前研修会が開催され、農業普及課からは、土壌診断結果や育苗管理、ほ場準備、定植時の注意点などについて説明した。

今年度、安八部会では6.6ha（前年比147%）、大垣部会では11.3ha（同122%）の作付が行われる計画である。

大垣、不破部会では8月1日頃から、安八部会でも8月16日から播種が始まった。JAの営農アドバイザーと巡回し、灌水方法や病害虫防除について助言している。

大垣部会では、8月17日にピクセル（30a）が定植され、8月20日に直播（シーダーテープ）を行い、種苗費削減のための試験ほを設置した。

売れる農畜産物づくり

■水稲 水稲の高品質安定生産の推進

海津市のあきたこまちの収穫が、8月11日～22日に行われ、収量は平年並み～やや多めの見込みであり、9月には早期米として販売される予定である。

コシヒカリの出穂期は、平年より3～5日遅れて8月上旬がピークとなった。ハツシモは、お盆頃から穂肥適期となり、出穂期は平年並みの8月末～9月上旬の見込みである。

農業普及課では、青空教室等において、今年度の気象状況や生育の経過を踏まえ、水管理、穂肥、病害虫防除など、今後の栽培管理と適期収穫について支援している。

■大豆 大豆の生育は順調

管内の大豆播種は、6月26日に海津市で始まり、8月上旬で終了した。7月下旬～8月上旬の高温・乾燥により、7月第6半旬以降に播種した一部ほ場で出芽不良・生育不足が確認されたが、概ね生育は順調である。海津市の6月下旬播種ほ場で、8月9日から摘心処理が始まり、7月上旬播種ほ場まで順次行われたが、7月前半まで降雨が多く、播種が遅れたため、摘心栽培面積は平年より少なくなった。

農業普及課では、ハスモンヨトウやカメムシ等害虫の適期防除や、帰化アサガオ等雑草の防除対策について支援することとしている。

■トマト 各トマト部会の施肥設計個人面談を実施

海津トマト部会では、抑制・長段作型の生産者対象に7月24～26日、促成作型の生産者対象に8月15日～16日、池辺園芸トマト組合は8月8日、輪之内園芸組合トマト部会は8月9日に個人面談を実施し、平成25年産の施肥設計を中心に栽培管理の指導を行った。

全般に、塩類過剰のハウスが多い傾向であり、必要最小限の土壌改良資材の施用に留め、腐植を主成分とした濃縮堆肥の使用により、肥料持ちを良くする塩基置換容量の向上が認められることから、引き続き施用するように指導を行った。

施肥管理以外にも、病害虫対策、高温対策、生理障害等の様々な課題について相談があり、今回の相談内容を踏まえ、今後とも各生産者への支援を行っていく予定である。

■きゅうり 土壌診断説明会及び研究会の開催

8月1日に、海津胡瓜部会の土壌診断説明会及び研究会が開催され、土壌診断結果に基づく施肥や抑制栽培の管理等について指導を行った。きゅうり黄化えそ病対策として、抑制栽培と半促成栽培の切り替え期間を長く必要があり、出荷期間を確保するために抑制栽培の播種時期を早める傾向にあり、抑制栽培の定植は、8月17日から順次行われている。

■いちご 育苗管理は終盤

7月上旬～8月中旬に親株からの切り離し作業が行われ、育苗も後半戦に突入している。巡回指導及び各地域の研修会で、子苗への適切な施肥や炭そ病の定期防除について指導している。炭そ病は、例年よりも発生は少ないが、徐々に増えつつある。

■春菊 24年産の販売額、1億円超える

7月24日に海津春菊部会総会が開催され、24年産の出荷実績が報告された。24年産の出荷量は175t(前年比88%)、単価は580円/kg(同119%)、販売金額は101,041千円(同104%)と、単価と販売金額は前年を上回った。

8月3日に栽培研究会が開催され、農業普及課から、農薬の安全使用、育苗の初期管理及びほ場準備等の栽培指導を行い、25年産の生産支援を行った。

■なし 早生品種梨の収穫始まる

7月31日に、早生品種「なつしづく」の目揃え会を開催し、出荷規格について再確認して品質の統一を図った。農業普及課からは、肥大状況調査の結果等について組合員に情報提供した。

収穫は8月1日から始まり、大垣市内の直売所では8月下旬まで販売されている。なつしづく目当ての客もあり、幸水と並ぶ早生品種の人気商品となっている。



【なつしづく目揃え会】

戦略的な流通・販売

■安八町農産加工運営委員会漬物部会 人気の塩麴を商品化

7月27日に、安八町農産加工運営委員会漬物部会において、農業普及課から塩麴の作り方に関する資料を提供し、塩麴の試作と商品化について検討を行った。

現在、塩麴の材料にする米麴は購入しているため、今後は米麴も部会で作ることで、コスト低減に取り組む予定である。



【塩麴製品】

多様な担い手の育成・確保

■トマト 農業経営継承事業に係わる「就農相談会」の開催

8月1日に、2回目の就農相談会が開催された。前回、就農希望者とトマト栽培経営者の双方が農業経営継承の意向を示したことを踏まえ、農業経営継承事業を活用した研修及び経営継承の進め方について、経営移譲者家族と就農(継承)希望者、関係機関が集まり検討を行った。

事業内容と進め方について、概ね関係者の合意が得られ、今後9月から事業に係る研修を開始する予定であり、農業普及課では巡回活動等により技術支援等行うこととしている。

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 有害獣動画の撮影成功

岐阜大学野生動物管理学研究室が、大垣市上石津町内の柵の張り巡らされた水田に侵入する鹿等の行動を観察するため、設置したトレイルカメラ(自動動画撮影機)に、水田に侵入した鹿や狸、柵の手前で徘徊する猪等の動画が撮影された。

農業普及課では、集落ぐるみで獣害対策を行う地域での住民説明会の際に、撮影された映像を活用し、獣害対策を考える貴重な資料とする予定である。